

【 養成医に聞く 】 赤穂市民病院

【自己紹介】

氏名：塩飽 詩織（しわく しおり）

卒後：2 年目

経歴：2023 年 3 月 神戸大学 卒業

2023 年 4 月 赤穂市民病院（初期研修）

【赤穂市について】

赤穂市は兵庫県の西端に位置している、人口約 4.5 万人の街です。山と海に囲まれており、キャンプや釣りなど、自然を楽しむことができます。また、牡蠣や鰯、赤穂の塩、塩見鰻頭などグルメも多くあり、市内で遊んだ時はつい食べ過ぎてしまいます。海沿いには「きらきら坂」という、ピザ屋や食器店などが並ぶ観光スポットがあり、県内外の観光客で賑わっています。

歴史上では、赤穂浪士が起こした事件をもとにした「忠臣蔵」が有名で、その舞台の一つである赤穂城跡は赤穂市民病院のすぐ隣にあります。春は城跡の桜が一斉に満開を迎え、病棟の窓からも春の色を感じることができます。



〈赤穂城跡の桜〉

キャリア形成卒後支援ユニット

postgrad@med.kobe-u.ac.jp

〒650-0017 神戸市中央区楠町 7-5-1 TEL 078-382-6596 FAX 078-382-6597（神戸大学総合内科医局内）

【赤穂市民病院について】

病床数 360 床で院内の常勤医師は 55 名、今年度の初期研修医は 11 名です。急性期～亜急性期の患者を担当しており、西播磨の地域医療を支える医療機関の一つとして周りの医療機関と連携しながら日々診療を行っています。

研修医は、循環器内科・消化器内科・内科・外科・麻酔科・救急科をローテートします。内科系ではカンファレンスで担当症例について発表し、担当患者の経過や問題点について上級医と相談しながら方針を決定していきます。また、手技をさせていただく機会もあり、アドバイスをいただきながら少しずつ腕を磨いています。また内科ローテーション中は診療所や訪問診療に同行し、診察や手技を見学させていただきます。特に訪問診療では、地域住民一人ひとりが違った環境にあり、その環境を壊すことのないよう一人ひとり違った医療を提供していることを学ぶことができます。

当直は、内科系医師、外科系医師、初期研修医 1 人ずつの 3 人体制で行います。救急車は赤穂市の他上郡や佐用方面からも要請があり、急性心筋梗塞やイレウス、脳卒中など緊急度の高い疾患も受け入れ初期対応を行います。また、当院で受け入れが困難な疾患に関しては、姫路や神戸方面の病院に転院搬送させていただくこともあります。walk in 患者については研修医がファーストタッチを行った後上級医に相談させていただいています。上級医からフィードバックをいただいたりご指導いただいたりすることで、自分のアセスメントや鑑別などの足りないところを学び、次の当直に活かしています。

初期研修の病院選択の際、どの病院を志望するか迷っている方はたくさんおられると思います。私も学生の際は最後まで答えをなかなか出せずにいた記憶があります。その時決め手となったのは、病院見学での研修医のお話や、研修医の業務を見せていただいたことでした。ぜひ当院含め病院見学に来ていただき、研修医のリアルな働き方など見ていただけたらと思います。



キャリア形成卒後支援ユニット
postgrad@med.kobe-u.ac.jp



〒650-0017 神戸市中央区楠町 7-5-1 TEL 078-382-6596 FAX 078-382-6597 (神戸大学総合内科医局内)